

マイコン，ミニコン内蔵の時代 — 迫られる機器の近代化 —

1979年5月21日より6月5日まで16日間、中国国务院環境保護弁公室の招きで訪中の機会を得ました。

主目的は、北京、瀋陽、上海等における大気汚染モニタリングネットワーク計画の技術座談会への参画であったが、中国関係者の環境科学の近代化への熱意にのみならず、もの感じられました。

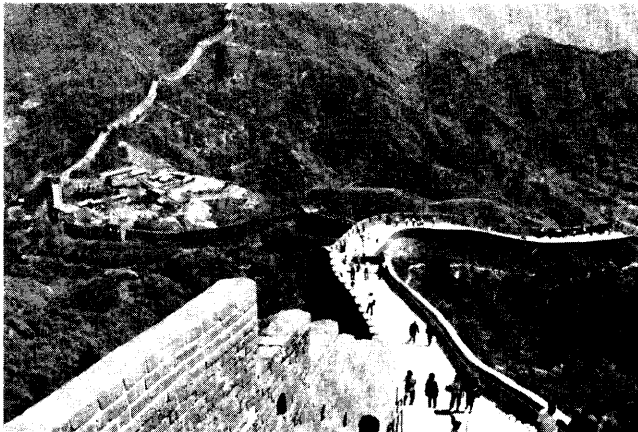
休日に案内された万里の長城は、支城をあわせて6000 kmに及ぶ世界最大の建造物で、2500年の歴史と規模の壮大さは想像に絶するものがあります。しかし、ここで見のがしてはならないものは、一つ一つのレンガの積み重ねの重要性であろうと思います。

さて、公害対策や環境評価の基礎となる環境科学も、多くの積み重ねの上、その進歩はめざましく、その広さ、深さは尺度こそ異なるが、“Great Wall”以上かも知れません。

とりわけ、地域環境の調査診断に不可欠の測定分析についても、日進月歩の今日、まさに、マイコン、ミニコン内蔵の機器の駆使なくしてはニーズに応ずることは不可能に近いといっても過言ではなからうと思います。久しく待望していた蛍光X線分析装置も、昭和54年度予算で近く設置されることになり大きな喜びであります。

しかし、研究所発足8年余を経過した現在、近代化、更新を要する機器が少なくありません。中期計画に示された公害研究所の増築と共に機器の整備近代化が、近く10周年を迎えようとする本市公害研究所の取組まなくてはならない最大の課題であると痛感しています。

なりふり、かまいながら、一同努力しています。関係者各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。



写真：万里の長城 1979.5.27 筆者撮影

昭和55年3月

川崎市公害研究所

所長 寺部本次